

## 第4学年 社会科 学習指導案

大牟田市立大牟田特別支援学校

教諭 瀬口 喬史

### 1 単元名 「くらしとごみのしより」

#### 2 単元の目標

- 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう計画的に進められていることや、生活環境と自然環境の維持向上に役立っていることを理解するとともに、大牟田市で定められたごみの分別のきまりの意味が分かり、正しく分別することができる。 (知識及び技能)
- 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力、市民と市との協力に着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉えるとともに、その事業が果たす役割やごみの分別のよさについて分かったことを図や文章にまとめることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 将来の生活環境や地域の自然環境を守りたいという意識をもち、一市民としてできることを考えて実践しようとしたり、ごみの分別に関する自分たちの課題を積極的に解決しようとしたりする。 (学びに向かう力、人間性等)

#### 3 単元について

##### (1) 教材観

本単元は、社会科第4学年の内容(2)の廃棄物の処理に関わる事業を取り扱ったものである。また、その学習を通して一市民として正しくごみを分別する意欲を高め、啓発や実践に生かすために「〇〇小クリーン大作戦」という活動を行う。

ごみを処理する側で働く大牟田市役所の環境業務課の方、エコサンクセンターやRDFセンターの方だけでなく、ごみを出す側の市民(家庭)の協力を得て、ごみの行方とリサイクル事業、ごみの出し方などについて学習する。これにより、収集された後のごみがどのように処理されるのか、市民がごみを分別することがいかに大切なことなのかを、実感を伴いながら理解し、分別の実践意欲を高めることができる。

また、大牟田市では、リサイクルのシステムの整備が進み、令和3年10月をもって市内全域でプラスチックごみを回収することとなった。徹底したごみの分別が今まで以上に求められるようになった本市において、児童がごみ処理事業について学習することは、これから家庭や地域で正しくごみを分別したりごみを減量化したりする実践意欲につながるよさがある。

##### (2) 児童観

本学級の児童は、ごみの分別や決まった日のリサイクル品の回収についておおむね理解しており、校内でのごみ出しも、ルールに沿って行おうとするなど、正しくごみ出しをしようとする意識は高い。また、本校区で10月からプラスチックごみの回収が始まったことをおおむね知っており、各家庭においても分別の取組がなされていると思われる。しかし、ごみがどのようにして回収され、どのように処理されているのか、なぜ分別のルールがあるのかについては十分に理解できていない。特に家庭でのごみ出しの経験が少ない児童については、決められた分別の仕方を詳しく知らなかったり、どのごみがリサイクルできるのか分からなかったりするという実態も見られた。

身近な町の様子から視野を広げ、市民生活を支える諸活動について理解できるようになったこの期に本単元を扱うことは、学習したことを生かして「一市民としてこれからの生活環境や自然環境を守る取組に挑戦していく」という課題意識と実践意欲を高められるという点においても、大変意義深い。

### (3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず「みつめる」段階で、ごみが回収される前後の2枚の写真を提示し、たくさんのごみが業者によって運ばれていることに気づかせ、その行方について思いを膨らませられるようにする。ごみがどのように処理されているのか、いずれ町がごみで溢れかえってしまうのではないか、という児童の声をもとに「いろいろなごみは、集められた後どうなっていくのだろう」という学習課題をつかませ、意欲をもたせたい。

次に「しらべる」段階では、家庭から出ているごみの種類やごみの分別の仕方、回収の仕方、その後の処理の仕方について調べる。各家庭でどんなごみが多く出されているのか、大牟田市ではどのような計画のもとでごみの回収をしているのか、リサイクルできるごみは何に生まれ変わるのかなどについて、家庭や地域の方、大牟田市役所環境業務課の方、RDFセンターの方などに話を聞く。その後の「ふかめる」段階では、これまでの学習を通して、自分たち市民一人一人がごみ問題の責任の一端を担っていることをつかませ、一市民としてできることがないか考えさせるようにする。

そして、「ひろげる」段階では、学校を中心とした実践「〇〇小 クリーン大作戦」を行う。家庭や地域の人に分別の仕方やごみの行方について知ってもらうためのパンフレット作りや発表を行ったり、校内でプラスチックごみの収集や計量をしたりすることで、校内から家庭、地域に適切なごみ処理の仕方を主体的に発信したり、自ら実践したりすることができるようにする。これらの活動を通して、ごみの分別が児童にとって一層身近なものとして感じられるようにするとともに、これからの社会生活でも高い意識をもって生活環境と自然環境を守っていこうとする態度を育むようにする。最後に、廃棄物リサイクル率65・3%（令和元年度）の成績を誇る福岡県大木町を紹介し、そう遠くない町で先進的な取り組みが実施されていることに気付かせる。これからも絶えずごみ処理にまつわる課題を多面的・多角的に捉えて解決していくことが求められていることに触れ、リサイクル事業の可能性の広がりに興味をもたせるようにする。

### (4) ESD との関連

#### ○本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）

##### 【相互性】

大牟田市における収集及び処理に関する諸活動は、私たち市民全員の衛生的な生活や環境の保全を支える重要な役割を担っていると同時に、それは私たち市民一人一人による分別等の取組によって実現しうるものであり、互いの協力によって成立していること。

##### 【有限性】

資源には限りがあり、資源をリサイクルする必要があること。また、ごみの埋め立てのように、リサイクルや再生エネルギー化することのできないごみの処理にも限界があること。

##### 【責任性】

ごみ収集及び処理に関する諸活動は、市と市民の協力によって成り立っていると同時に、将来の市民生活や自然環境を守るといった世代間の責任があること。

#### ○本学習を通して育てたい ESD の資質・能力

##### 【クリティカルシンキング】

「ごみ袋にまとめてしまえばよい。」「ごみの排出は仕方のないことである。」ということ自体を問いただし、再利用できる資源を活用する力や、ごみそのものの減量を工夫したりする力。大牟田市（あるいは人間が）新たな方法でごみの無害化・再利用化・エネルギー化に挑んできたことを知り、これからも絶えずごみ処理にまつわる課題を多面的・多角的に捉えて解決していかなければならないということに関心をもつこと。

### 【システムシンキング】

ごみ処理に関する人々の諸活動が、市民の公衆衛生を支えているだけでなく、環境の保全という社会的課題の解決にも寄与していることを理解し、大牟田市に住む自分たちもその責任の一端を担っているということを理解する力。また、市民と自治体、自治体と処理業者などのそれぞれの働きと協力によって効率的なごみ処理が実現しているという関係性を理解する力。

### 【長期的思考力】

ごみ処理や有限資源の実態に関するデータを基に、近年の動向（ごみ出しの実態や取組の成果、世界的な課題など）を知り、将来の自然環境を見据えた行動を取ろうとする力。

### 【共同的問題解決力及びコミュニケーション力】

他者に向けて問題提起をしたり、協力を仰いだりして、効率的かつ効果的に目標を達成しようとする力。

## ○本学集で変容を促す ESD の価値観

### 【自然環境・生態系の保全を重視する／幸福感を大切にする】

適切なごみの処理について考えることは、生活の衛生が保たれることはもとより、将来の自然環境の保護にも繋がっているということが分かる。人間の生活によって他の生物や人間自身の命が脅かされることを防ぎ、資源を枯渇させることなく豊かな自然を後世に引き継ぐべきであるということが分かる。

## ○達成が期待される SDGs

7：エネルギー

11：持続可能な都市・まちづくり

12：持続可能な生産と消費

14：海洋資源・海の豊かさ

15：陸上資源・陸の豊かさ

## 4 単元の評価規準

(ア) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 大牟田市におけるごみ処理について調べ、その仕組みや環境保全上の意義を理解している。	① 調べ活動や見学を通して、ごみ処理の仕組みと再利用、人々の協力に着目し、廃棄物の処理のための事業の様子を捉えている。	① 将来の生活環境や地域の自然環境を守りたいという意識をもち、一市民としてできることを考えている。
② 大牟田市におけるごみの分別のきまりを理解し、正しく分別することができる。	② ごみ処理の事業が果たす役割やごみの分別のよさについて分かったことを、人に伝えられるように図や文章にまとめている。	② ごみの分別に関する自分たちの課題を積極的に解決しようとしている。

5 単元の指導計画 (全12時間)

学習活動	指導上の留意点	評価・備考
<p>1 ごみ出し場の写真を見て、学習課題をつかむ。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝はごみがたくさん出されている。</li> <li>・缶や瓶を別に出さなければならないのはなぜ?</li> <li>・いずれごみで溢れかえってしまうのではないかな。こんなに捨てていていいのかな。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">                     いろいろなごみは、集められた後どうなっていくのだろう。                 </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみが回収される前後の写真を見比べさせて、出されているごみの多さを実感させたり、回収された後がどうなるのか想像を膨らませたりできるようにする</li> </ul>	ウ② (主体的)
<p>2 出されるごみの種類やごみ処理の仕組みなどについて調べる。(6時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭から出るごみの種類                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみやプラスチックが多い。</li> </ul> </li> <li>○ 計画的な回収の仕方とごみの行方                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・決められた日時で計画的に回収。</li> <li>・人々の協力関係で成り立つ事業。</li> </ul> </li> <li>○ ごみのリサイクルについて                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・ごみには再利用できるものがある。</li> <li>・燃えるごみは固形燃料にする。</li> </ul> </li> </ul> <p>⇒ 市民によるごみの分別の重要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家庭にごみ出しの実態調査の協力を仰ぎ、学級内でごみの種類を集計し、傾向を調べさせる。</li> <li>○ ごみの種類に応じて処理の仕方が異なり、それには市民の協力が不可欠であることをつかませるために、GTには近年の大牟田市でのごみ出しの課題についてお話をいただき、課題意識をもてるようにする。</li> </ul>	ア① (知・技) イ① (思判表)
<p>3 調べたことをまとめ、課題を見出し、自分たちにできることとして「校内クリーン大作戦」を行う。(3時間)</p> <p><b>【知らせよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ ごみ処理に関わる人々の働きと、市民の責任について。</li> <li>○ プラスチックを含む詳しいごみの分別方法について。</li> </ul> <p><b>【やってみよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境美化委員会の協力で分別の作業の一部を担う。</li> <li>○ 校内のプラスチックごみの回収と計量を行う。</li> </ul> <p>4 本単元の学習を振り返る。(1時間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックごみの多さに驚いた。</li> <li>・分別の仕方を詳しく知れたので、家族にも協力してもらおう。</li> </ul> <p>5 福岡県大木町のリサイクルの取組を知り、これからのごみ処理について関心をもつ。(1時間)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ <b>【知らせよう】</b>では、伝える相手に応じてどのような形で発信するか考えさせるようにする。</li> <li>○ <b>【やってみよう】</b>では、あらかじめ関係者に協力を仰ぎ、多くの人を巻き込んだ取組になるよさを実感できるようにする。</li> <li>○ 調べただけで終わらずに、個人レベルの取組を計画して実行に移せたことを称賛し、市民としての責任を果たしていることを実感できるようにする。</li> </ul>	ウ①② (主体的)  イ①② (思判表)  ア② (知・技)